

- 平成31年4月より、都立（総合）精神保健福祉センターを東京都における依存症相談拠点として設定
- コロナ禍における相談状況等については以下のとおり

## 1 相談状況

### ○アルコール関連相談件数の状況

（単位：件数）

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
2019年	244	250	279	221	228	289	258	245	212	211
2020年	195	183	194	163	134	239	212	252	238	262

※アルコール関連…アルコール、ギャンブル等、その他アディクション

（月報（福祉・衛生行政統計）より）

### ○コロナ禍をきっかけとした本人・家族等からの主な相談状況

No.	相談内容	対応経過
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の影響で職を失い生活資金が底をついた</li> <li>・ストレスが増大し酒量が増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活資金については専門機関を紹介</li> <li>・アルコール以外にストレスを発散できる活動を見つけるよう助言</li> </ul>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夫のアルコール問題について。コロナ禍で自宅勤務となり勤務中に飲むなど問題悪化しているが病識なし</li> <li>・夫が自宅にいることで子のストレスが増大し、自傷や抜毛など見られ精神科通院中</li> <li>・夫を精神科につなげるべきか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関や保健所を紹介するほか、精神保健福祉センターの面接相談を案内</li> </ul>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自粛期間中にアルコール依存症の夫と過ごす時間が増え、調子の悪い夫の様子を見ていたら自分も調子を崩してしまった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神保健福祉センターにて面接相談を実施</li> <li>・面接・家族教室への参加を継続中</li> </ul>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレワーク中のため自宅で飲酒する時間・量が増えた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神保健福祉センターにて継続相談中</li> </ul>
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部の相談機関や家族会が閉鎖したため、センターの家族教室に参加したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神保健福祉センターにて家族教室へ継続参加中</li> </ul>
⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで通っていた公民館が閉鎖となり、暇な時間が増えてスリップし体調悪化した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神保健福祉センターにて継続相談中</li> </ul>

## ○関係機関からの主な相談・情報提供等の状況

※関係機関…保健所、医療機関等

No.	関係	相談内容
①	保健所	・保健所から相談を受け、家族は精神保健福祉センターの家族講座に、本人は医療機関につなげた
②	保健所	・家族（妻）からの相談案件 ・夫はもともとアルコールの問題があったがテレワークとなって酒量が増え、家族に暴言あり ・まずは家族の対応について相談したいとのことで、保健所から精神保健福祉センターへの相談を紹介
③	保健所	・経営している飲食店の売上げが激減、店のお酒に手を付けるほど飲酒し、家族への暴力・身体的影響も深刻なケースなため、家族に精神保健福祉センターの相談を勧めたい
④	診療所	・内科で経過観察しているアルコール依存の患者がスリップし、入院を必要とする状態になっている ・コロナの影響で一般内科が入院を受けてくれないため、対応について相談をしたい

## ○コロナ禍における相談支援を継続させるための取組等

- ・感染リスクを恐れて来所面接に来られない相談者に対しては、定期的に電話で状況確認
- ・電話及び面接相談は随時受けていることを伝え、相談があった際には、丁寧な個別対応を実施
- ・第1回緊急事態宣言時の自粛期間中、来所相談は原則中止としていたが、緊急性の高いケースに関しては感染対策を行った上で、来所相談を実施 等

## ○コロナ禍においても相談支援を継続させるために今後必要な取組（課題）

- ・感染に関する不安から来所相談に至らないケースもあるため、ネットを活用した継続相談等、相談の間口を広げることについて検討していくことが必要（個人情報管理等への配慮が課題）
- ・病院の家族相談や家族会、地域のグループが中止となることも多いため、精神保健福祉センターの取組を継続し、相談支援につながることでできる環境を整えること 等

## 2 グループワークの状況

### ○アルコール関連のグループワークの状況

(単位：回数)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
2019年	12	13	12	16	12	17	17	19	18	17
2020年	16	36	14	3	4	20	18	19	17	18

※グループワーク…家族講座、回復プログラム等

(月報(福祉・衛生行政統計)より)

アルコール関連…アルコール、ギャンブル等、その他アディクション

### ○緊急事態宣言期間(4～5月)におけるフォローアップの取組等

- ・参加者に対しては、定期的な電話連絡を行い、近況を確認するとともに、電話や面接相談についても受付けていることを案内
- ・希望者に対しては、個別に面接相談を実施

### ○コロナ禍におけるグループワーク開催時の取組等

- ・開催時の感染予防への留意  
(検温、体調確認、手指消毒実施、マスク着用の確認、参加者間の距離を離して席を配置(参加者ごとに席を記録)定期的な換気、アクリル板の設置 等)
- ・公開講座や参加希望者の多い講座に関しては事前予約制とし、参加人数を制限  
(新規ケースや受講する必要性の高い家族が参加できるようにも配慮) 等

### ○コロナ禍以降の参加者の動向等

- ・テレビに相談先としてセンターの電話番号が表示されているのを見た家族が参加
- ・夫がリモートワークで朝から飲み始め、飲酒量が増えて心配なため家族講座に参加
- ・家族がステイホームをきっかけに飲酒量が増え、体調が悪化して心配なため家族講座に参加
- ・自助グループを開催したくても会場が借りられず実際に会う機会が減ってしまい、メンバー同士のつながりが薄れたと感じている(当事者意見)
- ・新たな社会資源を利用しようとしても感染拡大防止のため受け入れ中止となっていて、生活リズムが整わず調子を崩している。(当事者意見)
- ・他の家族会等が中止になっているが、センターの家族教室に参加することで他の人と話すことができ、安心感が持てた

## ○コロナ禍以降のグループワークの運用における課題等

- ・オブザーバー（民間団体等）の参加機会が減少
- ・個人情報等の機密性の高い情報を扱うためオンラインでの実施は難しい
- ・参加人数を制限しているため、参加希望者全員の参加が難しい場合がある
- ・対面でのディスカッションができないなどグループワークの形式に制限が加わった
- ・オンラインでの実施は個人情報の管理等への配慮が必要 等

### 3 まとめ

## ○依存症相談拠点における現状と課題

- ・従来からのアルコールに関する相談以外にも、コロナ禍以降の生活スタイルの変化等を要因とした相談が生じている
- ・感染症対策への配慮から、実施規模の縮小や、一部中止等の対応を行っているが、相談支援対象者の状況を踏まえ、個別面談を実施する等、必要な支援を実施
- ・一方で、支援を必要とする人の参加機会の確保や、依存症に関する情報発信、関係機関の連携の強化等の取組を充実させていく必要がある

## ○コロナ禍を踏まえた依存症相談拠点の新たな取組等【令和2年度】

区分	取組内容
相談支援・回復プログラム	・一部の回復支援プログラムにおいてZoomを活用した取組を実施【都立精神保健福祉センター】
人材育成	・関係機関職員等を対象とした研修を一部オンラインにて開催【中部総合精神保健福祉センター】
普及啓発・情報発信	・依存症対策普及啓発フォーラムをオンライン開催【中部総合精神保健福祉センター】
関係機関との連携強化	・都内3か所の精神保健福祉センターにおいて、依存症者を支援する地域の関係機関による連携会議を開催（一部会議において、オンラインも活用【中部総合精神保健福祉センター】）

引き続き、依存症相談拠点における支援の充実に向けて、取組を検討・実施していく